

“地域でできる高精度治療”の報告

医学物理室

伊東宏之

梅雨の合間の好天に恵まれた6月16日、当院放射線治療棟大会議室に於いて“地域でできる高精度治療”が開催されました。4月に放射線治療科に松浦知弘先生が入職され、強度変調放射線治療(IMRT)施設認定条件である”常勤医師2名の在籍”を満たし、5月1日付けで当院においてもIMRTの実施が可能となりました。

強度変調放射線治療の良い適応症例の1つは前立腺がんです。本研究会は、副院長兼診療局長でおられる仲川嘉紀先生のご講演でスタートしました。前立腺がんの基礎から、当院で実施している前立腺治療の実態と今後の展望について、詳しくご説明頂きました。IMRTでの治療が可能となる以前も、リスク臓器である直腸が受ける放射線量を低減するような工夫を行って照射しておりました。その努力の甲斐もあって、放射線治療開始から現在に至るまで、出血などの副作用は少なかったとのことでした。仲川先生はまた、前立腺がんのパスについての構想もお話になられました。病診連携の面でも非常に重要な内容であったので、参加されていた先生方からの質問も時間を超過するほど活発な議論となりました。

引き続き、近畿大学奈良病院の岡嶋馨教授よりIMRTのご講演を賜りました。岡嶋先生は放射線治療業界では知らぬ人がいないほどご高名な先生であります。当日は岡嶋先生、そしてIMRTへの関心の高さを示すが如く、参加人数は約50名と大盛況でありました。岡嶋先生の平易な言葉(コテコテの関西弁?)での分かり易い説明に、時間を忘れて聞き入ってしまいました。IMRTは腫瘍だけに高線量を集中させると同時にリスク臓器への線量低減を実現できる非常に有用な技術ではありますが、パワフルなワークステーションを使っても長い計算時間がかかる難しい治療計画を作成し、それを様々な線量計を用いて検証を行うため、患者さんへ実際に照射するまでには時間がかかるのだ、という言葉が印象的でした。講演後の質疑応答では、参加されていた先生から『手術や化学療法に適応外の高齢者などに、被ばくの負担が少なく治療できるIMRTを活用して欲しい』とのコメントを頂戴し、我々放射線治療スタッフにとっては非常に励みとなりました。

本研究会終了後に、天理よろづ相談所病院放射線治療科部長の根来慶春先生から、『遠方であるからといって、放射線治療のために2ヶ月も入院されると、患者さんは足腰も認知力も衰える。そのためには外来で通い易い病院で放射線治療を受けられる環境が必要である。』というコメントを頂戴しました。これはまさに岡村院長が常日頃仰っておられる、『歩いてきた患者さんを歩いて帰そう』というコンセプトと合致するのではないのでしょうか。

患者さんをご紹介下さる先生方、そして何より放射線治療に期待を寄せる患者さんのために、より一層努力していく所存ですので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。また最後となりましたが、本研究会の準備に奔走された方々へ感謝を申し上げます。皆様、お疲れ様でした。

